

第三部 狂氣を帯びる韓国の反日感情

李承晩政権以来の強烈な反日教育によって、韓国の反日感情は自家中毒してしまいました。誰かが「日本はこんな酷いことをやつたのではないか」と「日本人の悪行」を思いつくと、「残酷な日本人ならやつたに違いない」と盛り上がり、やがてそれは事実として集団記憶の中に組込まれて一人歩きを始めるのです。映画「軍艦島」はその典型的でしよう。

いづれも「創作」された歴史をぶりかざして「日本は歴史を直視せよ」と韓国が日本に迫るだけ」「これまで日本側は何ら検証もせずに謝罪してきました。このために韓国の人々は「自分たちは常に正しい」という過信に陥り、国際感覚に麻痺が生じたようです。

第三部では、反日感情が高まつた過程を振り返ると共に、今やカルト宗教のレベルに達した韓国の独善的反日活動の実態を明らかにします。

- (注2) 「軍艦島入門」黒沢永紀著（実業之日本社）
- (注3) 『端島（軍艦島）における聞き取り調査及び現地調査』後藤恵之輔、森俊雄、坂本道徳、小島隆行
- (注4) 「軍艦島 奇跡の産業遺産」黒沢永紀著（実業之日本社）
- (注5) 『正論』平成二十九年九月号「世界遺産「軍艦島」を韓国映画の捏造から守ろう」杉田水脈氏より
- (注7) 平成二十九年一一月四日付産経新聞「美しき勤き国へ 櫻井よしこ」より
- (注8) 『正論』平成二十九年九月号「世界遺産「軍艦島」を韓国映画の捏造から守ろう」杉田水脈より
- (注9) 『SAPIO』平成二十九年一〇月号「映画「軍艦島」は史上最悪のフェイクシネマ」より

第九章 戰後歪曲された韓国の歴史

李承晩による歴史捏造

韓国で今日のような激しい反日感情が生まれたのは、実は戦後のことなのです。初代大統領李承晩が史実をねじ曲げたことが始まりでした。

本来、日本から朝鮮半島が独立するなら、日本と併合条約を締結した李王朝の「大韓帝国」が復活すべきでしょう。事実、李王朝の正式な後継者である李垠殿下が日本に滞在中であり、「大韓帝国」復活への強い意志を持つておられました。

ところが実際には共和国が建設され、李承晩がアメリカのバックアップで最高権力の座につきました。下手をすれば李承晩は、李王朝から政権を奪つた「謀反人」として歴史に名を留めるかもしれません。ならば、そうならないよう彼としては、歴史を改竄しなければなりませんでした。

彼が歴史を改竄したもう一つの理由は、国民の「日本時代への郷愁」を断ち切ることでした。

戦後日本と分断された韓国は、世界の「一等国」から最貧国へ没落し、「なんだ、日本統治下の方が何もかも良かつたではないか」と日本時代を懐かしむ雰囲気が國中に溢れています。日本時代の方がよければ、新政権の存在意義がなくなってしまいます。

そこで李承晩は次の通り歴史を塗り替えたのです。

- 一、日本は李王朝を亡ぼし、朝鮮を植民地化して残虐な支配を行つた。
- 二、上海に亡命した独立運動家が『大韓民国臨時政府』を立ち上げ、『光復軍』を組織して連合軍の一員として日本と戦い、日帝支配に苦しむ朝鮮人民の解放に貢献した^{〔注1〕}。
- 三、その『大韓民国臨時政府』を引き継いだのが李承晩政権である。

これらは完全に「虚構」です。日韓併合は条約に基づく国と国との「併合」であり、日本が朝鮮半島を植民地化したわけではありません。イングランドとスコットランドの「併合」と同じであり、今で言うならアメリカの五一番目の州になることです。これによつて朝鮮の人々は、当時世界の「一等国」である「大日本帝国」の臣民^{〔注2〕}となり、彼らに日本人と同等の権利と義務が生じたのです。

日本統治下では残虐な植民地支配どころか、共に天皇陛下の赤子であるという「一視同仁」

の理念のもとで、日本人と朝鮮の人々はとても仲良くやつっていました。大東亜戦争では朝鮮の若者の大部分が日本軍に志願し、日本軍兵士としてアジアの人民を白人の植民地支配から解放するために戦いました。詳しくは拙著『本当は素晴らしい韓国の歴史』（ハート出版）を参照ください。

しかし、李承晩政権を正当化するためには、日本統治はあくまでも「植民地支配」でなればなりません。李承晩は歴史を改竄し、ありもしない残虐行為をどんどん捏造して自己政権を正当化し、その価値を高めようとしたのです。

さらに、彼は日本時代の真実を語る者を「政治犯」として徹底的に弾圧し、強烈な反日教育によつて国民に日本への憎悪を植えつけました。

自国民虐殺事件を隠蔽

李承晩が前記のように歴史を改竄したのには、実はもう一つ大きな理由があります。それは李承晩政権時代の自国民虐殺事件から国民の目をそらすためでした。

一九四八年に済州島で発生した四・三事件では多くの無辜の民間人が、共産ゲリラ帮助の疑いで政府軍により虐殺されています。金大中政権下で公布された「済州四・三真相究明及び犠牲者名誉回復に関する特別法」に基づく調査では、二万五〇〇〇人から三万人が殺されたことが明らかになりました。

そればかりではありません。李承晩政権は、一九五〇年に勃発した朝鮮動乱の最中に、大量の自国民を殺しました。動乱発生直後には、左翼からの転向者を再教育するために組織された「国民保護連盟」の連盟員を、「敵に寝返る恐れあり」として処刑しています。盧武鉉政権時代に韓国政府が設置した「眞実・和解のための過去史整理委員会」では、四九三四人が殺害されたことを公式に認めており、一方で一〇万人以上の連盟員が処刑されたという説もあります。さらに北朝鮮ゲリラ討伐の過程では、全羅道や慶尚道の山村で、女子供を多数含む民間人を「共産ゲリラ協力者」と見なして、数百人から千人単位で次々に虐殺しました。

これらの虐殺事件の責任が韓国政府にあることは明らかであり、いずれ国民の非難の矛先が政府に向かうはずです。そこで李承晩は虐殺事件をめぐる政府の責任を回避するため、「朝鮮戦争で同族どうし殺し合うことになつたのも、全て南北分断をもたらした不法な日本統治に原因がある」ことにしました。こうして歴史をねじ曲げ、朝鮮半島に渦巻いていたあらゆる同族間の「恨み」が、「日本への恨み」に収斂するよう誘導したのです。

「徵用工への年金支払い拒絶」を隠した朴正熙

その後の歴代政権も、国民の反日感情を煽ることで政権の浮揚を図りました。一九六一年にクーデターで権力を握り、以後一九年間韓国の政権トップの座にあつた朴正熙^(ナム・ジョンシ)も同じでした。彼には貧農出身の自分を引っ張り上げて、軍人として出世する道を開いてくれた日本の恩人に對し、個人的には感謝の気持ちはあつたでしょう。しかしながら政権を維持するためには、それを表に出すことはできません。もはや「反日」でしか国民をまとめることができなくなつていたからです。

一九六五年六月、「日韓基本条約」に付隨して「日韓請求権並びに經濟協力協定」が締結されました。

この協定によつて日本は朝鮮半島に残してきた日本の民間資産（朝鮮半島の南側だけでも現在の価値で八兆円）を放棄し、さらに無償三億ドル、有償二億ドル、民間借款三億ドル合計八億ドルの經濟支援をすることになりました。これは当時の韓国の国家予算の一・五年分に相当します。一方、当時の日本の外貨保有高は二一億ドルに過ぎませんでした。

実はこの交渉の過程で日本政府は、戦前・戦中に日本の公官庁や企業などで働いていた朝鮮の人々に対し、補償の意味を込めて、個人的に年金を支払いたいと韓国政府に申し入れたの

です。

事実、台湾に関しては、神奈川県高座海軍工廠で働いた八〇〇〇人の台湾人に対して、日本政府は年金を支給しています^(注3)。日本の戦争を支えてくれたことへのお礼の意味もあります。彼らは日本からの年金にサポートされながら、同工廠で身につけた技術を生かして戦後の台湾の工業発展に大いに貢献しています。

台湾の朴正熙大統領は、「個人への補償は韓国政府の責任において行う。日本からのお金は韓国政府が一括して受け取る」と言つて譲りませんでした。朴正熙としては、もし韓国の人々が個々に日本から年金をもらうようになると、韓国人の心にまた日本時代への郷愁が蘇り、韓国に対する忠誠心が薄れるのではないかと危惧したのです^(注4)。

このため日本は、朝鮮統治に協力してくれた人々や、徵用に応じた人々に対して、一銭の年金も支払うことができなくなりました。

日本が個人に対する年金の支払いを申し入れ、それを朴正熙が拒否した事実は、その後も韓国側で公にされることなく、韓国政府から十分な補償を得られない人々の間に、日本への恨みばかりが膨らんできたのが実態なのです。

韓国で必要なのは「るべき歴史」

ところで、このような「歴史の改竄や隠蔽」を行ふことに、何らの後ろめたさも感じないのだろうかと、読者の皆さんは素朴な疑問を持つかもしれません。ところが韓国ではそれが許されるのです。

この社会では自分の祖先にどんな人間がいたかどうかで、自分の一生が左右されます。祖先に「民族の英雄」がいれば、子孫は末代まで優遇され、逆に「問題」とされる人物がいれば、それを暴かることで現在の社会的地位も財産も失つてしまふのです。盧武鉉政権時代には、日本の朝鮮統治に協力したとされる人物の子孫たちが、日本円で合計二百億円近くの財産を没収されました。

これほど出自を重視する社会ですから、人々は一族の過去にどれだけ立派な飾りつけをするかに異常な執念を持つようになります。朝鮮文化の背景をなす儒教思想においても祖先の悪行はこれを隠し、ひたすら先祖を祭り上げることが「孝」の道でもあります。自分の都合の良いように過去を作り替えることは、自分を守るための手段であり、道徳にもかなうですから、良心的呵責どころか何の不自然すら感じません。

つまり、この国の人々にとって「ありのままの歴史」にはそれほどの価値はなく、大切なこ

とは、自分たちにとって「るべき歴史」を作り上げ、それを押し通すことなのです。

歴史捏造で植えつけられた日本への「復讐心」

さらにやっかいなことに、朝鮮文化には「過去を水に流す」という概念がありません。祖先の「憎悪」と「恨み」は世襲され、その子孫が仇の子孫を同じ目に遭わせるまで、恨みを晴らすことはできません。従つて「日本は世界で類を見ない残虐な方法で朝鮮半島を植民地支配した」という歴史観を植えつけられている韓国人は、何十年、何百年経とうが、必ず日本にその「復讐」をしなければならないのです。

しかしながら現代世界において、日本を「植民地支配」することはもはや不可能でしょう。その代りに慰安婦問題や徴用工問題を持ち出し、千年先まで日本人を貶めることで「復讐」しようとしているのではないでしょうか。

反日を掲げる文在寅政権は、慰安婦関連資料のユネスコ世界記憶遺産への登録を支援することを表明し、八月一四日を「慰安婦の日」としました。韓国政府として国立墓地に慰安婦の碑を建て、「日本軍『慰安婦』問題研究所」を新たに設立することも決まりました。

また女性家族省の鄭鉉柏大臣は、「慰安婦問題を後世に伝えるために、若い学生に歴史科目

として教えて行くことが重要である」と述べています。

韓国政府は「日本への恨み」を子々孫々にまで伝え、日本への復讐を達成するための手を着々と打つているとしか筆者には思えません。

「お氣楽な謝罪」が韓国人の怒りに火をつけた

韓国人の反日感情がここまで高まつた大きな原因が、日本にもあります。河野談話、村山談話、菅談話など、歴代の日本首相や高官が軽々しく謝罪を繰り返してきたことです。

外交は譲り合いではなく押し合いであり、こちらが配慮すれば相手も配慮するなど、絶対にありません。押し合つてどつかで妥協点を見つけるのが外交の本質であり、そこに「誠意」などが入り込む余地はありません。まして「謝罪」などしてしまつては、相手の言い分をまるまる認めてしまつたことになり、無条件降伏と同じです。「謝罪」でやり過ごそうと思つたら大間違いであり、そこから相手国による「責任追及」がはじまるのです。

もともと「謝つて済ませる外交」など世界には存在しません。政府が国家として正式に外国に謝罪すれば、自国の歴史に取り返しのつかない大きな汚点を残します。さらに莫大な補償を支払うことになり、場合によっては責任者を相手国の裁判に委ねることになります。死刑も覚悟しなければなりません。

政府が謝罪するということは、民族の名譽と尊厳、国民の命、膨大な経済的負担、そして国の将来がかかつた極めて重たいものなのです。ヨーロッパ諸国が過去の植民地支配に対しても一切謝罪せず、アメリカが日本への原爆投下を謝罪しないのもそのためでしょう。

ところが日本は、慰安婦問題などで「お氣楽に」謝罪を繰り返しました。その一方で日本政府は、責任者の処罰も国家補償もしません。何の証拠もないのですから、やりようがないのです。しかし外国人の人々にとつては、これほど無責任な話はありません。

「謝罪して非を認めたくせに、国家賠償はしないのか！」 責任者の処罰はしないのか！」と韓国人の怒りはますます増大したのです。

(注1) 大韓民国臨時政府は、朝鮮の独立運動家が集まつて上海に樹立した大韓民国政府の前身であると韓国は主張するが、実態は「一部の亡命政客が作ったクラブ」としか見なされず、どこの国からも承認されていない。光復軍も実数は数百名で実戦には参加しておらず、戦後ワシントンの指令により、大韓民国臨時政府及び光復軍の肩書での帰国は許されず個人の資格で帰国している。

(注2) 一般には君主国における人民の意。ここでは天皇陛下と深い絆で繋がっている国民。

(注3) (注4) 『正論』平成三〇年一月号 「微用工が韓国の近代製鉄所を作つた」 安部南牛より

第十章　日本への憎悪を煽る「反日施設」

前章では、なぜ韓国が「慰安婦問題」や「徵用工問題」で日本を貶めようとするのか、その心理について述べました。本章では具体的に韓国内でどのような反日教育がなされ、反日プロパガンダがどのように発信されているか、筆者が平成三〇年三月末から四月初めに行つた現地ルボによつて確認した、その恐るべき実態を明らかにしたいと思います。

独立紀念館

ソウル南方約一〇〇キロの天安には、壮大な反日施設「独立紀念館」があります。一九八二年の教科書騒動^{注1}で反日機運が盛り上がつた際に、同館建設のための募金運動が始まり、韓国政府が管理する国家的施設として一九八七年に完成しました。

広大な敷地には休憩施設もあり、休日ともなれば多くの人々が家族連れでやつてきます。小学生や中学生にとつては遠足や課外授業の目的地でもあります。

建物は一号館から七号館まであり、一号館（民族のルーツ）以外はどこも「日本の畜行」や

「反日闘争」がテーマとなつています。戦後、李承晩政権がねじ曲げた歴史がここでは「眞実」となつており、日本がいかに朝鮮の人々を虐待したか、そして祖先がどれほど日本支配に抵抗したかを誇示しているのです。韓国の反日教育の総本山とも言えるでしょう。

展示室ではジオラマや蠟人形などを多用し、視覚聴覚に訴えながら、見る者に日本への「恐怖」と「憎悪」を植えつけます。

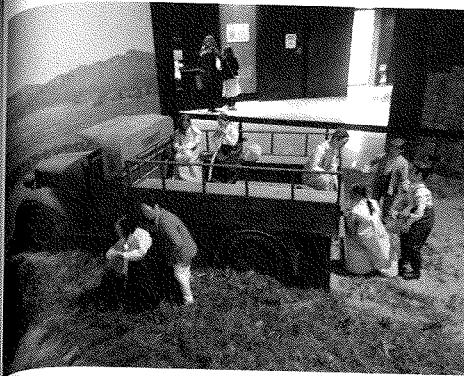
慰安婦関連コーナーでは、女性を無理やり引っ張つてトラックに乗せる場面や、日本兵が慰安所で列を作つて順番を待つてゐる様子をジオラマで再現しています。

さらにその横では、三次元立体映像で、慰安婦虐待の証拠を隠滅するため、日本兵が朝鮮人慰安婦姉妹を「日本のために喜んで死ね」と叫んで射殺するシーンを放映しています。殺害後に女性の説明者が現れ「慰安婦強制連行は日本政府が組織的に行つた残虐行為である」と決めつけて映像は暗転します。

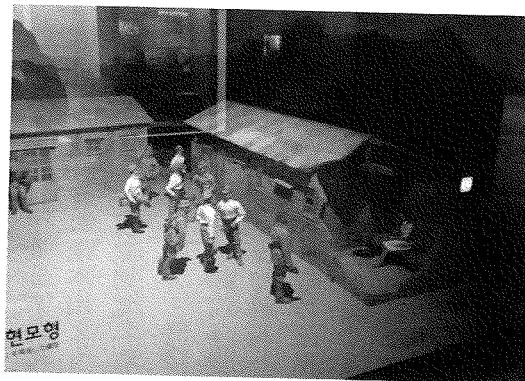
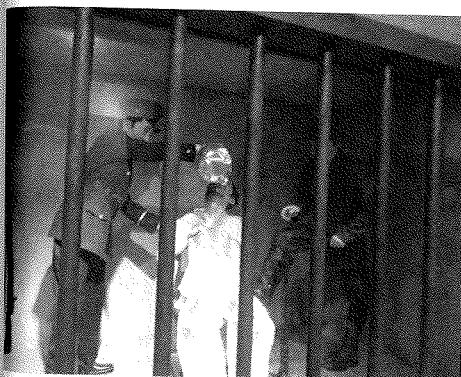
日本の官憲による拷問を再現したコーナーも強烈です。独立運動家が拷問されるシーンを「動く蠟人形」で再現しており、そのうちの一つは手を縛られた女性の足に棒を差し込み、骨が砕ける音と共に女性の悲鳴が聞こえできます。

これは、李氏朝鮮時代に行われた「周牢」^{注2}という拷問です。朝鮮総督府は、このような残酷な拷問を禁止していました。それをここでは日本人がやつているのです。

これを見た子供は、恐怖で震えていました。そして筆者の耳には「これが日本人のやることだ。日本の奴らめ！」という父親のうめき声が聞こえました。



朝鮮の女性を無理やりトラックに乗せる場面

慰安所で行列を作る日本兵
（현묘영）

独立運動家を拷問する官憲の姿（蛹人形）

西大门刑務所歴史館

ソウルの西大门独立公園内部に、「西大门刑務所歴史館（以下歴史館）」があり、ここも視覚や聴覚を利用した反日洗脳展示物で溢れています。

地下牢を再現した場所では、囚われた女性独立運動家の姿が暗闇から浮かび上がり、「マンセーマンセー（万歳々）」と悲痛な声で叫びます。日本の官憲による拷問場面を描いた絵がいくつも貼りつけられており、天井から逆さまに吊され、「水責め」にされる朝鮮人男性の蛹人形もあります。

売店では西大门刑務所に関する資料を多数販売しており、その中には「小学校低学年用」「学校高学年用」「青少年用」の三種類のブックレットがありました。「小学校低学年用」の最初のページには次のように書いてあります。

見出し：俺の言うことを聞かなければここに送るぞ！

言うことを聞かない者に、あえて言うことを聞かせるには脅かすのが一番です。日本もそうしたのです。約一〇〇年前、日本はあらゆる方法を使って我が国を自分のものにしようとしたのです。当然我が國の人たちは抵抗しました。そこで日本は交通量の多い西

大門にこれ見よがしに巨大な監獄を作りました。多くの人がこれを見て日本の侵略に抵抗するな！と

さらにテロリストの行為を「義烈闘争」と称賛し、次のように教えています。

見出し・義烈闘争—日本を武力で処断せよ！

日本で重要な決定を行う偉い人を殺したり、我が國の人間でありながら日本を助ける「親日派」を葬れば、日本が我が國を支配するのが困難になるでしょう。警察署のような日本にとって重要な建物を潰すことでもそうなるでしょう。このような戦いを「義烈闘争」といいます。一九一〇年、日本が完全に我が國を奪うと、命がけで「義烈闘争」を行った人々が一層増えました。日帝の手先である李完用^(注2)を殺そうとした李在明義士は法廷で「日本の奴らが不公平な法律で自分を殺せても自分の忠魂は殺せない」と堂々と叫んだと言います。

日本官憲による拷問についても次のように表記しています。

見出し・日本の残酷な拷問にも耐えた

保安庁舎の地下は日帝が独立運動家を取り調べ、拷問した場所です。日帝は耐えられないほどの残酷な拷問をやりました。(中略) 愛国志士たちがいかにその困難を耐え忍び独立運動を繰り広げたか、心が痛むと共に本当に尊敬します。皆さんも彼らに温かい慰労の気持ちと感謝を捧げましょう。

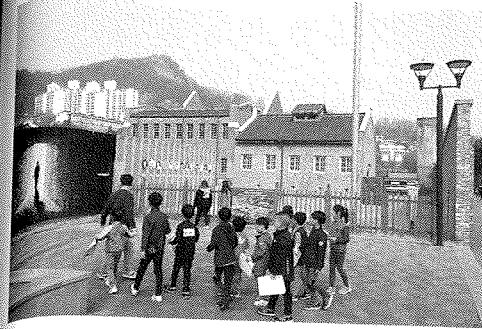
最後には死刑の場所まで細かに書いています。

見出し・祖国の独立も見ることができます……

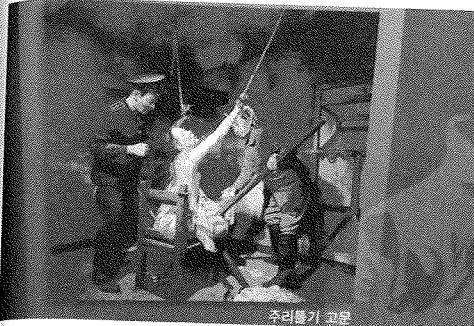
五メートルもの高い壁で囲まれた死刑場は一九二三年に建てられました。死刑場の中を覗くと、椅子と縄が置かれており、地下の死体収集室もあり、当時の様子を生々しく感じることができます。

この歴史館には子供たちが課外授業として教員に引率されてやつてきます。小学校低学年から、このようにして日本への憎悪を叩き込まれるのです。さらに、中学校、高校と成長段階に応じて「日本の残虐行為」をより具体的に教えるようになります。例えば「小学校高学年用」

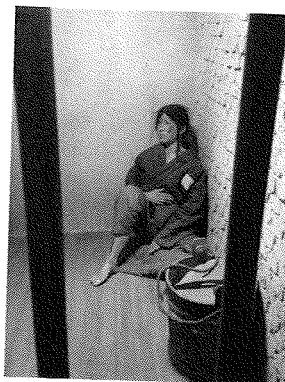
や「青少年用」のブックレットには、「箱拷問」というのが登場します。先が鋭くとがった鉄棒が内向きに刺さった小さな木枠の中に人を閉じ込め、少しでも動くと血まみれになる拷問器具です。子供たちが成長するにつれて、日本への怒りがより強くなるよう教育されるわけです。



課外授業で施設を訪れる子供たち



官憲による拷問場面を描いた図



囚われた女性独立運動家（蛹人形）

コラム①「西大門刑務所」とは

「西大門刑務所」は一九二二年に朝鮮総督府が作ったのですが、その目的は刑務所の近代化がありました。李朝時代の監獄は信じられないほど不潔で残酷なものでした。一坪に十五、六人押し込み、寝るのも交代で寝ていたそうです。『朝鮮総督府施政二十五年史』（国立国会図書館蔵）は次のように記録しています。

「併合前後の監獄は旧韓国時代に在りて最も顧みられなかつたものの一つで、その内部の不潔、不整頓並びに罪囚取扱いの惨酷なることは（中略）一讀膚毛の栗立ちするを禁じ得ないものがある」

朝鮮総督府はこの「地獄の監獄」を人道的な日本の刑務所並みにするために、最大限の努力したのが事実です。さらに、李氏朝鮮で行われていた残虐な処刑や拷問を禁止し、近代的な法治社会へと脱皮させました。しかし戦後の歴史歪曲によつて、今では「西大門刑務所」の存在が「日本の残虐行為」の証とされ、代表的な「反日洗脳施設」の一つとなつてしまつたのです。

戦争と女性の人権博物館

ソウル市麻浦区に「戦争と女性の人権博物館」があります。ここは「韓国挺身隊問題対策協議会^{注3}」が運営しており、慰安婦に関する資料が数多く展示してあります。日本軍の「悪行」を強調するためなのか、おどろおどろしい雰囲気が醸し出されており、なぜか内部は撮影禁止でした。

順路の最初に目にしたのは、壁中から飛び出している石膏で模られた老婆たちの顔や手でした。筆者の全身に悪寒が走りました。耳にあてた音声案内は重苦しい声で語り始めます。

左壁面の少女を見てください。これから待ち構えている過酷な運命を知らずに、うなだれたままどこかへ向かっています。そして右側の壁では、既に苦しみの時間を経てハルモニとなつた被害者が、皆さんを見つめています。この作品は実存する被害者の顔と手を石膏で模つたものです。被害者が皆さんに話しかけているように感じませんか。それは苦痛と無念が込められた彼女たちの絶叫でもあり、私の話を聞いておくれと囁いているようでもあります。

階段の壁面に掛かっている絵は、日本軍慰安婦被害者が連行された当時の記憶を書いたものです。日本兵に連行される様子や、船に乗つて遠い異国へ移送される様子が書かれています。果てしなく広い海を越え、見慣れぬ土地に向かう少女たちの恐怖心が、絵の中にそのまま表れているように見えます。

さらに音声案内は、慰安婦を日本の国家組織に組み込まれた「性奴隸」と決めつけ、次のように日本を非難します。

慰安所が設置されてから、日本の植民地だった朝鮮で何がおきたのかについて思いをはせながら、皆さんのが存知の「慰安婦」という用語について改めて考えてみてください。一つ重要なことは「慰安婦」という用語は歴史的な事実を明らかにするために使われていますが、その実態は「性奴隸」に他ならなかつたということです。

日本軍慰安婦問題は戦争と共に生まれ、拡大した犯罪です。戦争がどれほど恐ろしい方法で人の暮らしをこわすのか、とりわけ女性の人生をいかに破壊するのかを、最も極端に示す例です。何よりもこのような犯罪が日本政府という国家権力によって体系的な

制度として実施されたという意味で、より深刻な問題だとと言えます。

日本政府は日本軍慰安婦犯罪に対する、政府の関与を否定していましたが、日本軍の関与を示す文書が発見され、被害者の証言が出てくると、一部ではありますが関与の事を認めました。しかし政府の犯罪事実を全面的に認め、それに伴う法的責任を履行することはありませんでした。そこで被害者たちは日本政府を相手に日本の裁判所で訴訟を起こし、（中略）韓国と日本そしてアジアの被害国が共に日本軍性奴隸を裁く、女性国際戦犯法廷を開催し、世界女性の名で裕仁天皇に有罪を宣告しました。

音声案内は、終始女性の声で重々しく、いかに慰安婦が性奴隸として人権を踏みにじられ、戦後もどれほど悲惨な生活を送ったかを、まことしやかに訪問者に語りかけます。展示場には元慰安婦だつたと名乗り出た老女の絶叫する声が響き渡っています。

訪れた多くの外国人が深刻な表情を浮かべ、真剣なまなざしで展示物を見ていました。何も知らない人間がここを訪れれば、誰もが日本軍の残虐性に絶句し、慰安婦問題で日本政府を糾弾することこそ「良心」の証であると思うでしょう。

外国だけではなく、日本の中にもこの施設を支援している人たちが大勢います。「戦争と女

性の人権博物館日本後援会」のウェブサイトにある「募金者一覧」によれば、日本から募金をした人々の中に左記の労働組合や団体が名を連ねています（平成三〇年八月九日筆者閲覧）。

彼らは、北朝鮮の工作員と言われる人物が検事役を務めた「女性国際戦犯法廷」なる模擬裁判で、昭和天皇が「慰安婦強制連行の最高責任者」として「有罪」にされたことをどう思っているのでしょうか。

全日本鉄道労働組合総連合会

情報産業労働組合連合会

自治労東京都本部

NTT労働組合大阪支部

東日本旅客鉄道労働組合

大阪市労働組合

大田区職員労働組合

神戸YWCA

神戸国際キリスト教会

日本キリスト教協議会

国立日帝強制動員歴史館

釜山市南区に「日本植民地下の歴史を全て集約し、歴史の痛みを記憶する場所」として二〇一五年一二月一〇日に「国立日帝強制動員歴史館」が開館しました。この施設は一万二〇六二平方メートルという広大な土地に、日本円で五〇億円以上という費用をかけて韓国政府が建設したものです。

丘の上に聳える七階建ての瀟洒な建物の中には、日本統治時代に内地や南方に「強制動員」された人々の記録が大々的に展示されています。日本語のパンフレットもあり、「日本によつて行われた強制動員の惨状を国民に広く知らしめ、正しい歴史を鼓舞し、人権と世界平和に対する国民教育の場を提供する」と書かれています。

さらに、その「女性動員」の項目を見ると、「日本は一九三一年の満州侵略から一九四五年まで、戦争を効率的に遂行するという名目で、植民地の若い女性を日本軍が設置した『慰安所』に監禁し、性奴隸としての生活を強要しました。(中略) 動員された人員は四〇万人以上であったと言われています」との記述があります(注4)。

二〇一五年七月に「軍艦島」が世界文化遺産に登録されたことから、同館には「軍艦島」に関する展示物が多く、当時の写真や石炭運搬車を必死で押す朝鮮人労働者の蝋人形があり、落盤事故で生き埋めになつた現場を再現した展示物もありました。

以前、ここにも先述の韓国のMBCテレビが放映した「狭い採掘現場で横になつて掘り進む酷使される朝鮮人徴用工」の写真があつたそうですが、産経新聞の指摘で偽写真であることが判明したためか、筆者が訪れたときは既に取り外してありました。

順路に沿つて展示場を回ると、南方の島で「強制連行」された朝鮮人が防空壕を掘るところを蝋人形で再現しており、そこに建てられた立札には「朝鮮人は防空壕に入るべからず」と書かれています。

驚いたのは、慰安婦に関するコーナーに足を踏み入れた時です。突然テレビ画面に慰安所の一室が現れ、ベットの上で男女がもつれ合つている姿が出てきました。男は日本軍人で女性は朝鮮の少女です。男は泣き叫ぶ少女を殴りつけ、髪を引っ張り、ついに強姦します。続いてその横の別のテレビ画面に、強姦されて茫然自失となつた少女の姿が現れ、「私はここで何をしているの」「お父さんお母さんが恋しい」という字幕が出てきます。この「再現ビデオ」を子供たちが食い入るように見ていました。通常なら成人映画に指定されるようなシーンを国立の施設で堂々と「上映」しているのです。反日のためならなりふり構わない韓国の姿に、憐れみ

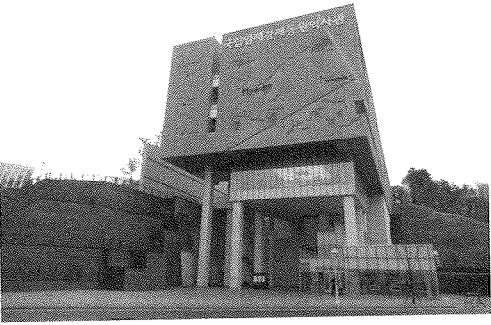
さえ感じてしまっています。

このような「日本の蛮行」の数々を見せられた後、出口近くでひときわ大きなタイトルが目に飛び込んできました。「隠れた加害者」強制動員現存企業」とあり、その下には次のように書いてあります。

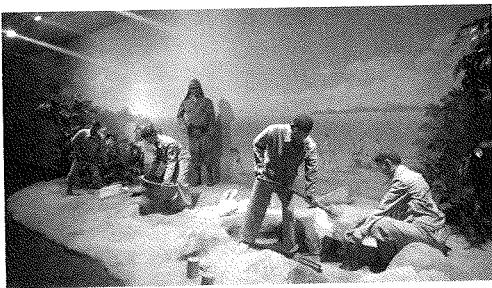
強制動員の加害勢力には日本の国家権力ばかりでなく、日本の企業も加わっている。彼等は企業利益を上げるために日本の国家権力以上に人力収奪に積極的だった。中小企業の水準にあつた日本の企業は人力と原資材確保、賃金統制、安定的な納品価格確保、インフラ提供など、当局が提供する条件を活用して莫大な利益を上げ、大企業へ成長した。該当企業の発展の礎石は、正に強制動員された朝鮮人の血と汗であつた。これらの企業は日本政府と軍部の庇護の下に強圧的に労働力を搾取し、未成年者を連れ去るなど、不法行為を行いながら労働災害に対する最小限の義務も履行しなかつた。

その場に設置されたテレビの画面には、韓国側が「戦犯」と認識している企業の名前が次々に映し出され、合計二六六社の名前が挙がりました（これ以外に二つほど不明瞭な記載あり）。

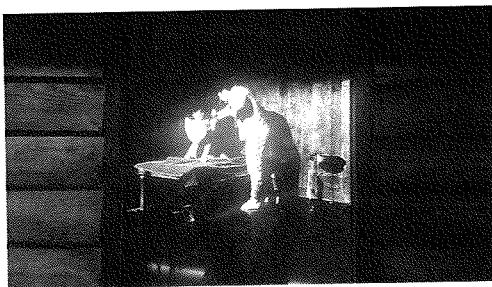
このコーナーでは、これまで元徴用工が起こした日本企業相手の裁判の過程が事細かにパネルに記載されており、この「国立日帝強制動員歴史館」が「戦犯企業」を糾弾し、日本側に賠償を要求するための大拠点であることを物語っています。



「戦犯企業糾弾の一大拠点」国立日帝強制動員歴史館



強制連行された朝鮮人に防空壕を掘らせる日本兵（蛹人形）



慰安婦として連れてこられた
朝鮮人の少女を強姦する日本兵（映像スチール）

朝鮮企業と韓国が認識している企業名

――――――レシで名前を挙げられた二六六社の「戦犯企業」は、次の通りです。

アイサワ工業株、愛知機械工業株、愛知製鋼株、愛知時計電機株、秋田海陸運送株、旭化成株、旭硝子株、味の素株、東海運株、株アステック入江、麻生セメント株、荒井建設株、飯野海運株、飯野港運株、池貝、石田株、石原産業株、いすゞ自動車株、イビデン株、岩田地崎建設株、宇部興産株、宇部マテリアル株、宇部三菱セメント株、SECカーボン株、NSユナイティッド海運株、Hitachi日立造船株、江若交通株、大阪機船株、大阪製鉄株、王子製紙株、株大林組、大阪瓦斯株、大阪金属工業株、株オーワム製作所、株オーワム紡機製作所、岡部鐵工所、神岡鉱業株、株京三製作所、鹿島建設株、春日鑛山株、片倉工業株、片山浜螺工業株、兼松日産農林株、川崎運送株、川崎汽船株、川崎重工業株、関西汽船株、関東電化工業株、神崎組、栗林商船株、協和発酵キリン株、栗本鐵工所、日下部建設株、熊谷組、クラシエホールディングス株、株クラレ、黒崎播磨株、グンゼ株、虹技株、小池組、合同製鉄株、鴻池組、神津製作所、国産電機株、株神戸製鋼所、コマツ株、コマツNTC株、相模組、サクシヨン瓦斯、株佐藤工業、佐野屋建設株、サワライズ、三光汽船株、山九株、三機工業株、サン

七尾海陸運送(株)、(株)名村造船所、西松建設(株)、野村興産(株)、新潟造船(株)、(株)ニッチツ、(株)ニチロ、日產化学工業(株)、日產自動車(株)、日鉄鉱業(株)、日新製鋼(株)、日本化學(株)、日本カターン(株)、日本カーバイド(株)、日本カーボン(株)、日本硝子(株)、日本乾溜(株)、日本軽金属(株)、日本建鉄(株)、日本高周波鋼業(株)、日本重化学工業(株)、日本車両製造(株)、日本水產(株)、日本製紙(株)、(株)日本製鋼所、日本曹達(株)、日本鑄造(株)、日本通運(株)、日本鐵板(株)、日本無線(株)、日本山村硝子(株)、日本郵船(株)、日本ヒューム(株)、(株)野上、萩森興産(株)、函館どつく(株)、パナソニック(株)、博多港運(株)、(株)間組、阪神内燃機工業(株)、日之出郵船(株)、日立航空機(株)、日立造船(株)、(株)日立製作所、平錦建設(株)、姫路合同貨物自動車(株)、廣島瓦斯(株)、備後通運(株)、(株)不二越、(株)フジタ、富士重工業(株)、富士電機(株)、富士紡ホールディングス(株)、古河機械金属(株)、フルチュウ(株)、古川電気工業(株)、伏木海陸運送(株)、北海道炭鉱汽船(株)、北越メタル(株)、保土谷化学工業(株)、マツダ(株)、(株)松村組、馬淵建設(株)、(株)マルハニチロ水産、(株)ミクニ、三井化学(株)、三井金属鉱業(株)、三井住友建設(株)、三井造船(株)、三井農林(株)、三井松島産業(株)、三菱化学(株)、三菱商事(株)、三菱重工業(株)、運(株)、明星セメント(株)、(株)宮地サルベージ、(株)未来図建設、向島ドック(株)、門司港運(株)、森永製菓(株)、矢橋工業(株)、(株)矢野鐵工所、山文油化(株)、ヤンマー(株)、横浜ゴム(株)、(株)ヨーダイ、(株)吉年、吉澤石灰工業(株)、(株)淀川製鋼所、ラサ工業(株)、(株)リーガルコーポレーション、(株)リコー

エレメックス(株)、燐化学工業(株)、りんかい日產建設(株)、(株)リンクコーポレーション、和光堂(株)

大韓民国歴史博物館

ソウルの中心部にある光化門の近くに「大韓民国歴史博物館」という国立の博物館があります。ここには主として一九四五年に独立した後の歴史的資料が展示されており、いかに戦後韓国人が頑張って今日の繁栄を築いたかを振り返り、国民に自信を持たせる目的としているように感じました。但し、文在寅大統領が「民主勢力を弾圧した独裁者」として最も嫌正在する李承晩や朴正熙もここでは「功労者」として扱われており、やがて文政権によつてその展示内容も変わつてくる可能性はあるかもしれません。

念のために反日的なものは全くないか確認してみたところ、やはりここにもありました。子供コーナーに置いてある絵本を見ると反日で満載でした。出っ歯で恐ろしい顔をした日本の憲兵が朝鮮人の母子を脅かしている絵が描かれ、「日本の憲兵は鬼のようだつた」と書いてあります。別のページには日本の官憲が「独立運動家」を引っ立て、拷問している絵まであります。これを四歳から五歳の子供が読んでいるのでしょうか。この国では「日本憎し」の感情を子供に植えつけることが最優先であり、子供たちの心の発達にどのような影響を与えるかなど二の次

三の次のようです。

因みに、この博物館から歩いて五分程度のところにソウルの旧市庁があります。日本統治時代に建てられた立派な建築物ですが、手狭となつたため現在は図書館となっています。二〇一二年に隣接して大きな新序舎が建てられましたが、ご覧の通り、どう見ても「日本統治時代の残滓」である旧序舎を津波が呑み込もうとするデザインです。地元民はこれに「ツナミ」という愛称をつけ、設計者も「津波といわれるのが醍醐味」と喜んでいるそうです。

東日本大震災で痛手を受けた日本国民の一人として、写真を撮る手が震えました。

記憶の場

二〇一六年八月二九日、ソウル市内南山のふもとに



「ツナミ」という愛称が付けられたソウル市庁新序舎（筆者撮影）

ある南山公園に、ソウル市と市民団体が「旧日本軍の従軍慰安婦問題を後世に伝えるため」として「記憶の場」という広場を造成しました。

ここは韓国が日本の保護国であった一九〇五年から一九一〇年まで、日本の統監の官邸があつた場所です。完成記念式典には元慰安婦を含む計約一二〇人が出席し、朴元淳ソウル市長は挨拶で「悲しく苦しい植民地支配が繰り返されないよう、（広場を）整備した」と述べています。広場には「歴史を見つめる」大きな目が描かれ、背後の石壁には「我々にとつて最も恐ろしいことは、我々の辛い歴史を忘れてしまうことだ」というタイトルが書かれています。その下には元慰安婦たちの「証言」なるものが列記されており、最初の一文はこのように始まっています。

私は十二歳、お姉さんと一緒に青菜を摘んでいるところに、車がやつてきて帽子をかぶつた人が車に乗れと言つた。二人が抱き合つていると、私を蹴飛ばして姉の頭を掴んで車に押し込んだ。私が泣くと私も一緒に捕まつてしまつた……。

石壁には元慰安婦が描いた「日本軍に連行される慰安婦の絵」を拡大したレリーフもあります。そしてこの「記憶の場」の碑文には次のような「決意」が刻まれています。

侵略戦争中である日本軍の性奴隸として連れて行かれた少女たちは、現地で虐待を受け、死んだり、病気にかかると捨てられた。解放されたといつても、満身創痍の体で危険な帰国への道で倒れたり、動きがとれないまま知らない他国で息をひそめながら暮らすしかなかった。さんざん苦労して故郷にたどり着いても、誰もが彼女たちの苦痛に知らぬ顔をし、共同体は彼女たちを排除した。解放された祖国にあつても、彼女たちの身の上は政府や目撃者から無視され、沈黙を強要された。しかし半世紀ぶりに沈黙を破り、被害者たちは世の中に向かつて真実を叫んだ。街頭で、裁判所で、世界各地の人権舞台で、反人類的戦争犯罪の被害者であつたが、堂々と平和人権活動家として活躍されたハルモニ（おばあさん）たちのメッセージを継承しようという決意を示すために、社会団体、政界、女性界、学会、文化人界、独立運動家の子孫などが集まり、「記憶の場」造成国民募金」を開始した。

そして一九七五人が参加して目標額が達成され、ソウル市の協力でこの「記憶の場」ができた。「記憶の場」がハルモニたちを永遠に記憶し、この地に眞の正義と平和が宿るようにするための学びの場であり、思索の場となることを期待する。

広場の上には「ソウル・ユースホステル」があり、韓国の青少年と共に外国の若者が多く宿泊しています。宿泊客のほとんどは、この広場の横の道を歩いて通るため、必ずこの大きな「目」が目に入り、興味を持つ仕組みになっているようです。

日本の保護国だった時代、この広場付近には統監府官舎もあり、跡地の一角には元駐韓公使林權助の碑が逆さまに立っていました。彼は日韓併合の推進者と見なされ、時の国王であつた高宗を無理やり退位させた張本人となつており、「地獄に落ちろ」という復讐の意味を込めて、彼の名前が刻まれた碑を、逆さまにして地面に突きたてているのです。

- (注1) 教科書書き換え騒動とは、一九八二年六月二六日に文部省（当時）の高校教科書検定で中国華北地方への日本軍の「侵略」を「進出」に書き換えたとマスコミが一斉に報道し、後に全くの誤報であることが判明した事件。この事件がもとになり「教科書の記述内容は近隣諸国に配慮すべし」という「近隣諸国条項」が政府によつて策定され、今日に至るも「眞実の歴史」を日本の教科書に記述する上での障害となつてゐる。
- (注2) 一九一〇年に「日韓併合二関スル条約」に調印した当時の大韓帝国の首相。
- (注3) 一〇一八年七月に、名称を「日本軍性奴隸制問題解決のための正義記憶連帯（正義連）」に変更した。理事長には、韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）の尹美香常任代表が就任。
- (注4) パンフレットの内容については『歴史通』（ワック）平成二九年四月号「韓国日帝強制労働歴史館の嘘八百」三輪宗弘より引用。